

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 25 年 11 月 14 日 (木)

第 25 号

発行人 校長 鈴木史良

「世界に羽ばたく」ことの意味

—— 見事「世界に羽ばたいた」いわき市の中学生たち ——

11月11日(月)のGlobal Eyeの時間に読んだ新聞記事は、8日(金)付の毎日新聞に掲載された「中学生がタイに校舎贈る」というものでした。生徒たちは記事を読んで自分の考えを記述した後自宅に持ち帰り、ご家庭でのコメントを記述していただきました。Global Eyeの内容を学校だけでなく、家庭でも共有し、家族で意見交換する機会にするという今年度から始めた活動ですが、世の中の出来事について同世代の意見ばかりでなく、異世代の意見にも耳を傾けることはたいへん重要なことだと思います。以下、今回のトピック記事「中学生がタイに校舎贈る」の概要です。

「震災時に支援してくれたアジアの子どもたちに恩返しをしたい。」福島県いわき市の公立44中学生徒会長が集う「いわき生徒会長サミット」が呼び掛けた募金で、まもなくタイの山間部にあるファイコン村の生徒たちが学ぶ新しい中学校舎(3教室)が完成する。かかった費用は約500万円だという。

議長の根本直哉さん(中3)らメンバーは、震災当時は小学6年生で、卒業式は中止になった。同サミットは震災直後の7月に「20年後、30年後のいわき市を担う人づくりを」との願いで結成された。いわき市にはタイやラオス、ベトナムの子どもたちからも義援金や励ましの手紙が届いていたが、それらの地域では学校が不足しているとの話を知り、昨年4月にアジア教育友好協会が推進している「ワンコイン・スクールプロジェクト」に参加することを決めた。ワンコインで無理ない募金活動を進めたが、中には「消防団やボランティアら多くの人に助けてもらった。今度は自分たちが支援する番。」と小遣いをため5千円を寄付した中学生もあった。いわきでの取り組みを知った現地の中学生も「一緒にがんばりたい」と、栽培したコーヒー豆を売るなど資金集めを始めた。

「いわき生徒会長サミット」は来春の開校式に向け、教室の壁面を飾るため、募金活動中の生徒たちの笑顔の写真を集めたコラージュアートを贈ろうと計画している。

(毎日新聞 11. 8 朝刊より)

【生徒たちの感想】

- 震災時に支援してくれたアジアの人に恩返しをしたいと中学の生徒会長らが言い出したのは、やはりすごいと思いました。こういうことはなかなか中学生が考え出せることではありません。その中でもこういった活動を思い付き、実行するのはすごいなあと思いました。(1年男子)
- 同じ中学生でも、行動を起こしていてすごいと思った。深中でも、地球温暖化対策を全校で話し合っているから、行動を起こしたいと思った。震災後で、まだいわき市もたいへんだと思うけど、それでも恩返しをしたいと、校舎を贈ろうと考えられるのはすごいと思った。(2年女子)

- 震災時に支援してくれたアジアの人々に恩返しをしているのはすごいと思う。自分たちも大変なのに、少しずつ貯めたお金を送ってアジアの子どもたちのためにがんばったということは、僕たちにもできることだと思う。また、44の中学校で協力しているということもあって、とても大規模であるので、僕たちも大規模にやったらさらにお金が貯まると思う。(3年男子)

【家庭からのコメント】

- まだまだ自分たち自身がたいへんな生活を強いられているのに、「支援しよう。」と思えるなんて、頭が下がりますね。支援の仕方にはいろいろあると思うけれど、“形”となって見える支援は、やりがいもひとしおです。義援金って、東北の震災被災者にどのように使われているのか……と疑問の声が最近あるのも事実だから。(1年保護者)
- 「情けは人のためならず。」誰かのことを思っで行うことが、すべての人、そして自分のところにも返ってくるのです。深中生も世界を見つめてみると、いかに自分が幸せなのか、自分がどう行動したら良いか分かりますね。みんなで団結したのも素敵です。(2年保護者)
- 人がたいへんな時にどれだけ力になれるのか、考えさせられる。また、思っただけで行動に移すことは勇気のいることだけど、一人ではできないこともたくさんの人たちの協力があれば実現可能。いわきの中学生たち、アジアの子どもたちともに心の財産を積んだと思う。(2年保護者)
- 復興が思うように進まない中、気持ちに余裕があるとは思えませんが、自分たちのできることを見つけ、行動に移し目標達成を成し遂げた中学生たちに頭が下がります。小さな力が大きな希望を生むのだなと思いました。(3年保護者)
- 中学生たちのたくましさ感動し、心強さを感じると共に、(その反面) いったい“大人たち”は何をやっているのか……と悲しくなった。近隣の国々“大人たち”が「恕(じょ)」の心をもって、互いに尊び合って向き合っていくことが、どうしてもっと素直にできないのだろうか……。 (3年保護者)



技術科で生徒が育てた大輪の菊

今回も多くのご保護者の皆様からコメントを寄せていただき、感謝申し上げます。毎回読ませていただく度に、子どもの成長を思う素直な心情、内容の深さ、視点の豊かさに驚かされ、且つ心うたれます。私たち大人の姿勢が子どもたちの成長に大きな影響を与えるということを改めて感じさせられます。

恩返ししたいという思いで校舎を贈ったいわき市の中学生の活動は、絶賛に値すると思いますし、またその活動を知って、一緒に頑張りたいとコーヒー豆を売って資金を稼いだファイコン村の中学生たちもすごい。校舎建設によって、多くの子どもたちが学ぶことのできる持続可能な社会を実現したと言えます。何千キロも遠く海を隔てあった地にあっても、人種や民族を超えて中学生たちの心がつながり合えたことはたいへん喜ばしいことです。このような活動がごく普通に、普段着のままできたらいい。この二つの国の中学生の姿が深中生の心にも響いたことでしょう。“いつか世界に羽ばたく日のために、深中生よ 今こそ豊かに学ぼう！”